

『不明に生きる』(ダニエル書 2章 12-30節) 2021.9.19.

<はじめに> 2:4-7章はアラム語で書かれ、ダニエルらが諸王に仕える中で起きた不思議な出来事、夢・幻が続きます。各章は長いですが、印象深い物語です。できれば前もって読んでいただくと幸いです。2章はバビロンの王・ネブカドネツアルが不思議な夢を見て、心騒がせています。

I 心騒ぐ夢(1-18)

① 夢の意味を知りたくて(1-12)

夢を見たネブカドネツアル王は、呪法師、呪文師、呪術師、カルデア人に夢とその意味を告げるように命じます(5-6)が、さすがに彼らも王の見た夢までは示せません(10-11)。王は苛立ち(8-9)怒り、バビロンの知者すべてを滅ぼすように命じます(12)。

② 神を知る方法

聖書には、神が夢を通して人に語られるケースが数々描かれています。夢・幻・預言・奇蹟などを神の啓示として受け取る場合、神の性質と計画・意志に矛盾しないはずで、それを知るために、聖書とその歴史、御子イエスのことばと生き方に注目すべきです。

③ ダニエルの応対(13-18)

知者殺害の手はダニエルたちユダの捕虜にも伸ばされます。ダニエルは親衛隊長から事の次第を聞き、王のところに行き、夢を解き明かすための猶予を願い出ます。それから、彼は3人の同僚のもとに行き、共にこの秘密について天の神にあわれみを乞います。

II 知恵と祈り(14-18)

① 知恵と思慮深さ(14)

危機の中で彼は慌てふためいてはいません。厳命に困惑する親衛隊長に語り掛け、王の真意を探ります。王が求めているのは夢の意味で、知者のいのちではありません。人が憤る時、怒りの矛先の奥に過去からの痛み・不信(8-9)が潜んでいることがあります。

② 祈り合う仲間(17-18)

王に猶予を願い出たダニエルには、まだ何もわかっていません。しかし、王の夢をも司られる天の神・主に望みを置き、同僚と共に祈り求めます。秘密も共に分かち合い、祈り合う友を得るにはどうすればいいでしょう。そのような友を思い浮かべられますか。

③ 祈りは聞かれる？

明らかに難しいことを、彼らは大胆に祈り求めました。彼らは自分のことだけを求めたのでしょうか。祈りを神は聞かれ、応えられます。神には、聞かれる祈りと聞かれない祈りがあるという人がいます。どんな祈りを、神は待っておられ、それに応えて動かされるのでしょうか。

III 秘密を明らかにされる方(19-30)

① ダニエルの賛美(19-23)

幻のうちに秘密が示されたダニエルは神を賛美・礼拝します。知恵と力、自然界、諸王の勃興と歴史はすべて神の支配下にあります。秘密と不思議も神の前には明らかです。その御方が私の父祖の神で、私に知恵と力を授け、人の心の内さえも明らかにされます。

② 心の思いを知るために(24-30)

ダニエルは親衛隊長を通じて王の前に出ます。「ユダの捕虜の中に」(25)も天の神・主を際立たせます。秘密を明らかにするひとりの神が天におられ、これから起こることを夢で王に知らせたのです。秘密を示された者は、それをどう受け取り扱うかを神に問われます。

③ 祈りのうちに聞く

人から神へ告げるだけが祈りでしょうか。神が何を願い、これからどうされるのかを示し、祈る者に具体的に語り掛けられます。祈りは神との交わり、語らいです。祈りで示されたことが、御子イエスの教えと生き方、聖書と合致しているかで確認します。

<おわりに> 神が秘密を人に明かされるとは驚きです。それにふさわしい人を神は今も求めておられます。クリスチャンは皆、期待されています(申命記 29:29)。混沌とした時代ですが、神の御計画ははっきりしています。それを解き明かし、生きる人を神は求めています。(H.M.)